ホームページ

“身近な図書館”をめざして

収書・整理課　　玉川　恵理

大学図書館は主な利用者が研究・学習を目的としている教員・学生であるため、学術書が蔵書の大半を占めるという特徴があります。これは当然のことと言えますが、“図書館は勉強するためだけの場所”と考えているかのように、試験期間だけ利用する人が多いという現状はとても残念なことです。

日常的に図書館を利用してもらえるようになるために、利用者との距離を縮める努力をしていかなくてはならないと思います。

図書館を利用してもらうためには、利用者にどんな資料を所蔵しているのか、いつどんなことが行われるのか、といった情報を正確に伝ええることが重要です。図書館は主に掲示・ホームページ・図書館だよりなどで情報を発信していますが、これらの方法は自身で見に行ったり、取りに行ったりしてもらわなければ伝えることのできない広報です。さらに言えば、すべて視覚に頼った広報といえます。

教職員の方々には図書館だよりの発行時に毎号配布させていただいていますが、学生一人一人に配布することはできません。図書館の利用者を対象としたアンケートで“図書館のホームページや図書館だよりを見たことがある”と答えた人が半分以下だったことからも、学生に情報を伝えるためには広報の広報が必要だと思います。

図書館だよりなどにどんなことが掲載されているのかといった情報を、簡潔にまとめて学内放送などで普段から耳に入る環境をつくり、こういった放送をある程度反復して行えば、十分効果があると思います。また学内放送は学生が行っているので、学生と直接接点を持つことができます。日ごろから図書館と関わってもらえるようになれば、より図書館を身近に感じてもらえるようになるのではないかと思います。

図書館が開催する行事には講習会や見学会がありますが、外部にも大規模に広報を行う最も大きな行事は蔵書展です。

本学では貴重書室の資料を含めた蔵書を毎年“蔵書展”という形で公開しています。貴重書に関心を持たれている方は学内のみならず学外にも多く、新聞や市政だよりなどでも広報が行われます。こうした行事にも学生に参加してもらうことができれば、より幅広い展示にすることができるのではないかと思います。例えば、蔵書展はテーマを決めて開催されるので、テーマに関わりのあるサークルなどに関連展示をしてもらったり、体験学習教室のようなものを開催したりするのもよいのではないかと思います。また学生だけでなく教員の方々にテーマに関連のある講演会をしていただくなどすれば、より多くの人に関心を持ってもらえるような行事としていくことができると思います。

図書館は学部や学生と教員といった隔たりを越えてたくさんの人が集まる“場”なので、こういった行事を率先して多く開催できるようになっていきたいと思います。情報を保有するだけでなく、積極的に公開し、またその手助けとなるような企画をしていくことで、図書館と利用者との距離は縮まっていくのだと思います。

大学図書館は学術書が大半といっても、近年では文学賞授賞作を中心に小説などの購入もされています。図書館は日々利用者の要望に応えるために努力しています。これからも利用者が気軽に立ち寄れるような図書館となり、そして多くの資料に親しんでもらえる環境を整えていくことが、我々図書館員の役目だと思っています。